

第26期〔自 平成18年4月 1日〕 事業報告 〔至 平成19年3月31日〕

1. 会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及び成果等

平成18年度は、沿線人口の減少等、依然として厳しい経営環境のなか、原油高騰による相次ぐ燃料軽油の値上げ等で更に厳しい年となりましたが、沿線地域の生活路線、三陸海岸を縦断する観光路線として、安全で安定した輸送を目指して取り組んでまいりました。

また、経営改善計画につきましても3年目となり、目標達成に向けて社員全員の総力を結集して計画を推進してまいりました。また、今後の更なる効果的な取組みについての検討を行っているところであります。

企画列車として「産直列車」、「八戸線直通春さんりく号」、「さんりくトレイン北山崎号」、「よく出来ました号」、「リアス・シーライナー」、「こたつ列車」、「つばきまつり号」、「南リアスさくら号」、イベント列車として「花見カキ列車」、「結婚式列車」、「ゴルフコンペ列車」、「大船渡市成人式列車」、「十五夜列車」、「クリスマス列車」、「初日の出号」、「初詣号」等の列車を運転し増収に努めました。

また列車内で「頑張る地方応援懇談会 in 岩手」が開催されました。

「産直列車」では、社員による「漁師ガイド」や「虎舞」を登場させ、今年で4回目の運行となる「こたつ列車」も車内に「なもみ」が登場したり宮古駅でのカニ汁のサービスを実施する等、サービスを充実させ誘客に努めました。

健康促進と利用促進を兼ねて「唐丹桜ウォーキング」、「つつじの今出山登山」、「第20回三鉄山根ウォーキング」を行ったほか、JR東日本と岩手開発鉄道の三社合同企画による「3鉄まつり」等を開催し増収に努めました。

「三鉄パスポート」は、10月から3月までの実施期間中に小学生を中心

に 1,482 人、786 千円の利用がありました。

観光客誘致を目的としたエージェントセールスは 5 月、9 月、2 月に東京、名古屋、大阪、福岡、PR キャラバンを東京、仙台、盛岡、八戸において実施し「さんてつくん」が大活躍しました。

県外エージェント主催による団体客は、エージェント毎に多少の増減はあるものの相変わらず順調な伸びを示し、セールス活動の効果もあり 11,687 人増で前年比 127.7% となりました。

経営改善計画に基づく経費削減策として、車両の一部検査や清掃及び構内作業の直轄化を実施し、年間約 15,000 千円の経費削減を行いました。

岩手県三陸鉄道強化促進協議会と共に展開している「マイレール三鉄・沿線地域 30 万人運動」の一環として販売した「マイレール 30 万人運動三陸鉄道乗車券」は、沿線市町村、沿岸 4 振興局、三鉄友の会等と共に PR 活動を推進した結果、1,478 セット、2,956 千円の売上げがありました。

平成 18 年度の鉄道事業は、県外エージェント主催団体が好調だったことにより、乗車人員は 1,041 千人（前年比 98.5%）とやや減少したものの、旅客運輸収入は 382,928 千円（前年比 100.4%）と昨年を 1,400 千円上回る収入を上げることができました。

鉄道事業、関連事業全体では、経営改善計画に基づいた社員の削減と業務の効率化を進めましたが、施設や車両の老朽化による交換部品の増加と燃料軽油の価格高騰があり、営業費は 3,983 千円増の 555,519 千円で、これに固定資産税を加えた経常支出は前年に比べて 3,307 千円の増で 576,558 千円（前年比 100.6%）となりました。

営業収益は、鉄道事業が前年比 100.9% と好調でしたが、関連事業が前年比 99.9% となったため全体では 435,305 千円（前年比 100.7%）、これに営業外収益を加えた経常収益は 457,125 千円（前年比 100.9%）となり経常損

失は前年度より 1,109 千円減の 119,432 千円となりました。

また、経営改善計画に対しましては、3,600 千円ほど改善しております。

なお、前年度経常損失額 120,541 千円に相当する額について、岩手県から運営費補助金として交付いただいております。その他の特別損益等を加味すると、10 月の低気圧被害の復旧工事費 4,295 千円を特別損失に計上しておりますので当期純損失は 3,471 千円となりました。

平成 19 年度におきましても、三陸沿岸地域の公共交通機関としての使命を果たすため、安全安定輸送に努めサービスの改善を推進するとともに岩手県をはじめ沿線市町村のご支援をいただきながら、経営の安定化に向けて努力してまいります。

(2) 主要な事業内容

ア. 鉄道事業法による旅客運輸並びにこれに関連する事業

イ. 旅行業法による第2種旅行業

ウ. 物品販売業

(3) 事業所

本 社 盛岡市内丸 10 番 1 号

事業所 宮古本社

宮古市栄町4番地

北リアス線運行本部

久慈市川崎町 10 番 20 号

南リアス線運行本部

大船渡市盛町馬場 4 番4号

駅 有 人 4 駅 久慈・宮古・釜石・盛

無 人 21 駅 陸中宇部・陸中野田・野田玉川・堀内・白井海岸・
普代・田野畑・島越・小本・摂待・田老・佐羽根
一の渡・平田・唐丹・吉浜・三陸・甫嶺・小石浜
綾里・陸前赤崎

営業所及び店舗

三鉄ツーリスト(旅行業) 宮古駅内

リアスボックス(物品販売業) 宮古駅内

(参 考)

町村立等の観光センター 陸中野田・普代・田野畑・島越・小本・
設置箇所 田老・三陸・綾里の8駅

(4)財産及び損益の状況の推移

区 分	16年度 (第24期)	17年度 (第25期)	18年度 (第26期)
営 業 収 入	443,352千円	431,932千円	435,305千円
当 期 純 利 益	14,957千円	11,673千円	
当 期 純 損 失			3,471千円
1株当り当期純利益	498円	389円	
1株当り当期純損失			115円
総 資 産 合 計	458,101千円	552,408千円	432,600千円
総 資 本 合 計	211,786千円	223,459千円	219,987千円

(5)従業員の状態

区 分	従業員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
男 性	63名	1名減	42.3才	19年 5ヶ月
女 性	2名	1名減	36.4才	12年 7ヶ月
計	65名	2名減	42.0才	19年 2ヶ月

(注)この外に、臨時雇用社員が19名おります。

2. 会社の株式に関する事項

(1) 発行する株式の総数 100,000株

(2) 発行済株式総数 30,000株

(3) 当期末株主数 48名

(4) 主な株主

株主名	持株数 (持株比率)	当社の当該株主への出資状況
岩手県	14,400株(48.0%)	0
宮古市	1,250株(4.2%)	0
(株)岩手銀行	1,200株(4.0%)	0
大船渡市	1,150株(3.8%)	0
新日本製鐵(株)	1,000株(3.3%)	0
東北電力(株)	1,000株(3.3%)	0
一関市	700株(2.3%)	0
久慈市	650株(2.2%)	0
釜石市	650株(2.2%)	0

3. 会社役員に関する事項

(1) 取締役及び監査役の氏名等

(平成19年3月31日現在)

氏名	会社における地位	他の法人等の代表状況等
増田 寛也	取締役会長	岩手県知事
熊坂 義裕	取締役副会長	宮古市長
甘竹 勝郎	取締役副会長	大船渡市長
山内 隆文	取締役副会長	久慈市長
小沢 和夫	取締役副会長	釜石市長
山口 和彦	代表取締役社長	
谷藤 裕明	取締役	盛岡市長
伊達 勝身	取締役	岩泉町長
上机 莞治	取締役	田野畑村長
深渡 宏	取締役	普代村長
小田 祐士	取締役	野田村長
須藤 薫	取締役	岩手開発鉄道(株) 代表取締役社長
大井 誠治	取締役	岩手県漁業協同組合連合会 代表理事会長
竹内 重徳	取締役	岩手県副知事
藤尾 善一	取締役	岩手県地域振興部長
永野 勝美	監査役	(株)岩手銀行 代表取締役頭取
佐藤 安紀	監査役	(株)北日本銀行 代表取締役頭取

注1. 代表取締役社長 竹澤久嗣氏は、平成18年6月19日に取締役を退任しております。

注2. 平成18年6月19日に取締役 山口和彦氏が代表取締役社長に、藤尾善一氏が取締役に就任しております。

(2) 取締役及び監査役の報酬等の額

取締役 2名 6,432,000円

監査役 ー ー